

会 議 録

| | | | | | | |
|--------------------|-----|---|----|------|------|----|
| 会議名 (審議会等名) | | 相模原市立博物館協議会 | | | | |
| 事務局 (担当課) | | 生涯学習部博物館 電話042-750-8030 | | | | |
| 開催日時 | | 令和元年7月26日(金) 14時~16時 | | | | |
| 開催場所 | | 博物館小会議室 | | | | |
| 出席者 | 委員 | 7人(別紙のとおり) | | | | |
| | その他 | 0人 | | | | |
| | 事務局 | 5人(博物館長他4人) | | | | |
| 公開の可否 | | 可 | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 0人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | | | |
| 会議次第 | | 1 あいさつ 2 議題 (1) 平成30年度博物館事業報告 (2) 令和元年度博物館事業計画 (3) 博物館評価について (4) その他 | | | | |

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 経 過

異動職員および今年度の事務局職員紹介につづいて、兼杉館長のあいさつのち、青木会長の司会により議事を進行した。

2 議 題 (は委員の発言、 は事務局の発言)

(1) 平成 3 0 年度博物館事業報告

事務局から、平成 3 0 年度の博物館事業について、配布資料に基づき説明を行った。

学びの収穫祭の内容と参加団体数を教えてほしい。

博物館の学芸員が関わった学校のクラブ活動や大学生の研究、一般のボランティアグループや地域の郷土研究をしている団体・個人の研究発表や活動発表である。小学校3年生から一般の方までが発表を行った。発表数は、口頭発表が15本、展示発表が22本、ワークショップが3本である。

来館者300万人達成記念イベントでプレゼントしたプラネタリウムの招待券はどれくらい利用されたのか。

5月1日時点で918枚中、151枚の利用があった。今回の来館者300万人達成記念イベントは、幅広く多くの方にお祝いしていただき、限られた方へのプレゼントにならないような事業展開を行った。

くん蒸期間中は何日くらい休館にしたのか。

被覆くん蒸のため、くん蒸ガスの漏洩の心配がないので休館にはしていない。現在は収蔵庫くん蒸は実施していない。

収蔵庫くん蒸を実施していないのは適正に資料が管理されているからか。

有害生物調査を実施しており、くん蒸をしなければならぬ害虫の発生は確認されていない。費用対効果や環境への影響を考慮して収蔵庫くん蒸は実施していない。

常設展の資料はくん蒸をしなくても大丈夫なのか。

これまでのところ、資料の被害は発生していない。全館くん蒸は開館以来1回

実施したのみである。

博物館の使命は資料を将来に残すことである。予算が削られてもくん蒸は必要である。

くん蒸ガスは活性炭吸着してから排出しているのか。

吸着して濃度を0ppmに近づけてから排気している。

来館者にくん蒸業務は通知しているか。

くん蒸エリア内に来館者が近づくことはないので、特に通知はしていない。街の中の博物館でくん蒸をすると、近所の方から問い合わせがあり、問題になることもある。公立博物館では今後、来館者や近隣に住まいの方への周知方法を考える必要がある。

くん蒸の周知については、方法なども含めて業者とも相談して検討する。バックヤードには、くん蒸実施中の掲示をしているが、館内への周知の徹底も含め検討していきたい。

年報にくん蒸を実施していると公開しているので、環境に配慮していることを明記した方が良い。

くん蒸の排気による周囲の林への影響はあるのか。

排気にガス成分は含まれないため影響はない。

年報の記載にも環境への影響はない旨を入れた方が良い。

JAXAからの借用物の中で借用開始日が不明となっている資料がある。展示しているならば、借用開始日がわからないことを気にする人もいる。

記録がなく、正確な日付の確認がとれていないので不明としている。

JAXAでもわからないのか。

わからない。借用開始日不明の場合の表記方法を工夫したい。

借用物ということはいずれ返却するのか。

先方から依頼があれば返却する。

尾崎弔堂記念館の利用者数が増えているが、吉野宿ふじやの利用者数は減っている。利用者数の増減の理由については分析しているのか。

明確な理由はわからない。JRや旅行業者とのタイアップで作成されたポスター等で紹介されると増える。委託事業の企画内容の影響もあるのではない

か。吉野宿ふじやが土日のみの開館となったことの影響もある。なお、1日あたりの利用者は増えている。

尾崎号堂記念館と吉野宿ふじやの利用者数を増やすため、JRや旅行業者とのタイアップも一つの方法である。利用者数はどのように数えているのか。

管理人が入館者数を記録している。

(2) 令和元年度博物館事業計画

事務局から、令和元年度の博物館事業について、配布資料に基づき説明を行った。

総合博物館にはいろいろな分野があるので、単独の分野の企画だけではなく分野を横断した総合的な企画もあった方がいいのではないかと。分野を超えた、本当の意味での総合展示を企画したらどうか。

他の博物館では例はあるのか。

あまりない。

市内にある関連施設とも連携してはどうか。できることから始めるのが良いのではないかと。

市内在住の利用者が約6割だが、現在でも同じか。

直近の企画展でも同じような傾向である。

多言語化の進行具合は。

3月末に館内に英語表記パネルを6枚設置した。

学びの収穫祭は博物館に関連したグループのみが発表している。一般公募すれば、幅広い発表があっても良いのではないかと。

発表者・団体を公募にすると審査が必要になり、審査基準の設定などの課題がある。また、スケジュール的にも困難である。スペース的にも難しい。博物館を拠点に活動している個人・団体を対象としているため、学芸員が専門的に関わった個人・団体としたい。

多くの事業があり、学芸員がオーバーワークになっていないか。今後、事業数

は維持するのか、減らすのか。

市民協働の割合を増やすなどして事業数は維持していきたい。スクラップ&ビルドを進めつつ、特色ある事業を展開していきたい。

海外のキュレーターと違い、日本の博物館の学芸員は研究以外のボランティアコーディネーターなども行なっている。バランスをとりながら仕事を進めないと学芸員がオーバーワークになる。

ボランティアのクイズの出題の仕方は、知識を問う問題になりがちになるので、参加者が考えるような設問とする必要がある。

内容については、学芸員もチェックしている。クイズラリーのイベント時には、ボランティアが展示室に立つなどして参加者に対応している。

知識を問うのではなく、展示をよく見て解答していただくような設問となるように指導した。

広報はどのように行っているのか。

全報道機関に情報を提供している。

広報さがみはらはもっと魅力的な掲載方法にしたらどうか。タイトルなどに工夫がほしい。

広聴広報課とも相談して検討したい。

小学校にチラシが配布されている。生物の企画展の反応が非常に良かった。子ども達に博物館の存在は伝わっている。子どもが無料で来られるのは大きな魅力でもあり、それ自体が広報となっている。

小学校でチラシをもらったから来たとのアンケートの回答も多い。近隣10校に絞った配布ではあったが、小学校へのチラシ配布は効果が大きいのので今後も進めていきたい。

市内の全校全クラス数くらいのチラシを配布してはどうか

検討したい。

(3) 博物館評価について

事務局から、博物館評価について、配布資料に基づき説明を行った。

次の評価対象期間である平成29年度から平成31年度の評価のあり方を考えていただきたい。実際に評価を実施するのは第13期の協議会となるので、今期は評価書の形では残らない。しかし、平成29年度および30年度の博物館活動を実際に見ていただいているので、評価に関わるコメントをいただきたい。

今回の評価項目は、内部で検討した結果、前回は踏襲して実施することにした。承認していただけるのならば、コメント記入用のシートと資料を送付するので次回までにコメントをいただきたい。また、どのようなデータ資料が必要なのか、議論いただきたい。

評価項目が同じであれば改善具合が見られるが、一方では恒常化してしまう可能性もある。

どこまで踏襲するのか。評価項目は前回と同じにするのか。

大項目は博物館の重点目標や市の後期実施計画と一致しているので、4つの大項目は変えられない。小項目は終了した事業もあるので変更する。

「常設展示リニューアルと宇宙教育普及事業の推進」の項目にある宇宙教育普及事業は博物館事業の中で大きな割合を占めている。常設展示リニューアルと一緒にするのは無理があるので、独立した項目として取り上げた方が良いのではないか。存在意義が高く、もっと評価できる。実情に合わせて変更すべきである。

来年度、次期実施計画でも分けることを検討している。評価では分けることも検討したい。

「関連施設・機関との連携」の項目はわかりにくい。関連施設は博物館所管施設に変えたらどうか。機関は学校・公民館を指しているの、機関は学校・公民館等に変更したらどうか。

一般の方にもわかりやすいように変更も検討したい。

定量評価の部分で、平成28年度の入館者目標について、達成率などが掲げられておらず、目標が達成できたかどうか検討したコメントがない。総括に必要なければ目標値は必要ないのではないか。入館者数よりも内容が大切なので、数値目標は必要ない。

削除することも検討したい。

市の人口変化等も考慮に入れる必要があるの、入館者数の目標値はあまり必要ない

小学生の数も減っているので、目標値は必要ない。

修正はするものの、前回は踏襲するということで委員でも異議はない。資料としては、加工したデータを提出していただくことにしたい。

評価シートの記入は全部ではなく、一部でいいのか。

全ての項目にコメントをいただく必要はなく、関心のある分野や興味のある部分だけでも構わない。

各委員のコメントをまとめたものを作成するのか

まとめたものを作成する。

実施内容、自己評価、特記事項の区別が曖昧である。

わかりにくい区分があるので、わかりやすいように整理した形で提出する。

(4) その他

博物館に関する法律が改正された点について、説明がほしい。

法改正により、公民館、図書館、博物館などの所管を教育委員会から首長部局に移管することが可能となった。

学芸員はすでに業務多忙であり、法改正もあれば、さらに多忙になるのでは。今後、ボランティアコーディネーターを導入するなど、学芸員が疲弊しないような取り組みが必要ではないか

より効率的な業務遂行ができるよう、考えていきたい。

働き方改革をぜひ進めてほしい。

市長部局への移管で、博物館本来の機能が果たせなくなる可能性がある。

博物館の研究活動において学問の自由が担保されるようにすべきである

学芸員の能力向上に向けて、何か取り組みをしているのか。また、学会発表等もしているのか。

神奈川県博物館協会の研修や、各学芸員が所属する専門分野の学会に参加し、発表も行なっている

次回は10月ごろの開催予定である。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

| No | 氏名 | 備考 | 選出区分 | 出欠席 |
|----|--------|---------------------|-------------------|-----|
| 1 | 水戸 一平 | 市立富士見小学校教諭 | 学校教育 | 出席 |
| 2 | 千葉 美希子 | 県立弥栄高等学校副校長 | 同 | 欠席 |
| 3 | 戸塚 厚生 | 市文化財研究協議会会長 | 社会教育 | 出席 |
| 4 | 若林 由美 | 市立小中学校 PTA 連絡協議会副会長 | 同 | 出席 |
| 5 | 井上 博美 | 市女性学習グループ連絡協議会書記 | 家庭教育の向上に資する活動を行う者 | 欠席 |
| 6 | 小瀬 康行 | 東京家政学院大学教授 | 学識経験者 | 出席 |
| 7 | 青木 雄司 | 神奈川県公園協会職員 | 同 | 出席 |
| 8 | 生田 ちさと | 宇宙科学研究所准教授 | 同 | 欠席 |
| 9 | 三宅 潔 | 市の住民 | 市民公募 | 出席 |
| 10 | 成田 治子 | 市の住民 | 同 | 出席 |